

授業科目名	助産所実習 <i>Clinical Practicum in the Midwifery Home</i>		担当教員	永松 美雪、後藤 智子	
開講年次	1年後期・2年前期	セメスター	2・3	時間数(単位数)	90 (2)
必修選択	専攻領域必修	授業形態	実習	使用教室	
授業の目的	助産所の管理システムを理解し、妊産婦ケアの実際、出産における安全性の確保と医療連携のあり方について研究し、自律した助産師として、助産ケアを評価・分析するための基礎を養う。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 無床助産所と有床助産所における助産管理と地域連携の実際を理解できる</li> <li>2. 助産所における妊産婦・新生児のケアの実際を理解できる</li> <li>3. 出産における安全性の確保と緊急時における医療連携のあり方について理解できる</li> </ol>				
授業計画	<p>I. 実習方法</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習期間 2週間 (体験型実習／企画型実習)</li> <li>2. 実習場所 菜の花助産院 (有床助産所：福岡県飯塚市)：参加型と企画型 にじいろ助産院 (無床助産所：福岡県福津市)：参加型のみ</li> </ol> <p>II. 参加型実習 (1年後期：4日間、12月第3週前後を予定) ※2名一組で実習する</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 菜の花助産院にて2日間、にじいろ助産院にて2日間の計4日間の実習を行う。</li> <li>2. 無床助産所と有床助産所における助産管理と地域連携の実際を把握する。</li> <li>3. 助産師とともに行動し、助産所や地域で展開される助産ケアの実際を見学する。</li> <li>4. 状況によっては助産師とともに対象者に対する援助に参加する。</li> <li>5. 助産師と医師や他職種との連絡・連携について学ぶ。</li> <li>6. 事後カンファレンスにて、疑問や学習上の問題点を整理する。</li> <li>7. 毎日、その日の参加を通じた学びについて整理する。</li> <li>8. 以上の内容について、レポートにまとめ後日提出する</li> </ol> <p>III. 企画型実習 (2年前期：4日間、4月第3週前後を予定) ※2名一組で実習する</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 菜の花助産院にて4日間ずつ、2名1組になって実習を行う。</li> <li>2. 実習目標および参加型実習での経験を踏まえ、実習を企画し、実習計画書および実習評価表を作成する。</li> <li>3. 企画した実習について、助産師の助言を得て実行可能な実習計画を立てる。</li> <li>4. 文献などを活用して、実施したことをレポートにまとめる。</li> <li>5. 実施したことを実習目標に沿って適切に評価する。</li> </ol>				
学習方法	本実習においては、経営、管理、ケア、安全、連携、質評価などのキーワードを押さえておくことが不可欠である。また、本実習は、実習生の主体性が尊重され、学ぶ意識と十分な事前準備が求められる。				
オフィス アワー	金曜日の昼休み、もしくは事前にメール (永松：m-nagamatsu@jrckicn.ac.jp、 後藤：t-goto@jrckicn.ac.jp) にてアポイントを取って下さい。				
テキスト	指定しない				
参考文献	助産経営管理学および助産関連科目全ての図書、文献				
評価方法	体験型 (40%)：＜内訳＞実習目標の達成度 80%、課題レポート 20% 企画型 (60%)：＜内訳＞実習目標の達成度 (実習計画含む) 80%、課題レポート 20%				